

針生検（コア針生検）を受ける患者様に

1) 目的と意義

主として体表の臓器の腫瘍（乳腺、皮膚、皮下腫瘍など）を貼り〔献血の採決に使う鍼と同じくらいの太さのハリですが、組織が取れるように工夫がしてあります（図1,2）〕で穿刺し、目的の腫瘍から組織片（図2）を採取して、固定、染色後、顕微鏡で観察します。1mmくらいの傷が付きませんが、正確な診断ができる可能性が高く、有用な検査です。

2) 方法

まず、局所麻酔をした後、多くの場合、超音波で観察しながら、針を腫瘍の手前まで進めます。その後、ボタンを押せば一瞬で針の先端が組織を採取する動作をします。このときやや大きな音がします。これを何度か繰り返し、十分な量の組織が採れていれば、暫く圧迫して止血します。

カットバンの上からガーゼを当て圧迫しておきますから、夜には圧迫を取ってください。カットバンは翌日の入浴時に、はずしてください。組織検査の結果は、ほぼ一週間でお伝えできますので、次回の診察の予約をしてお帰りください。

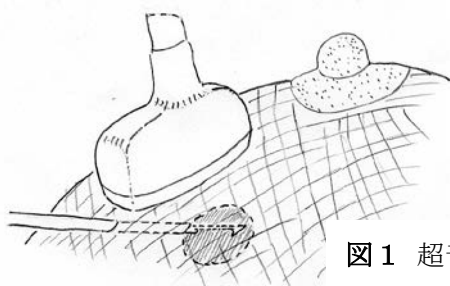


図1 超音波で見ながら
穿刺します

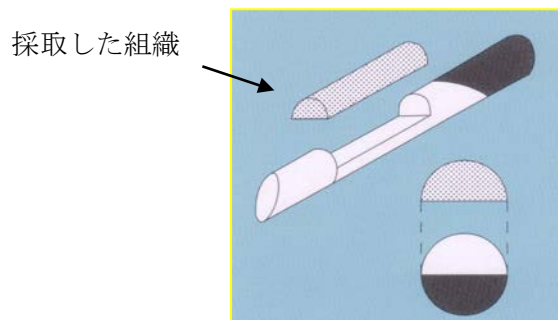


図2 針先の構造

3) 期待される効果

細胞診とは異なり組織片が採取されますので、良性・悪性の判断が容易であり、さらに詳細な組織型まで診断でき、確定診断とすることも可能です。また、特殊な染色を行って治療方針を立てる参考にできます。

4) 一般的な注意事項と合併症

細胞診より太い針を使いますので、穿刺後十分に押さえておかないと、後出血のため、周囲が黒ずむことがあります。また、しばらくの間痛みがあることもありますが、数週間で軽快します。また、血を固まりにくくするお薬を服用している方は、あらかじめ担当医あるいは担当の看護師にお伝えください。入浴は翌日から可能です。

5) その他の検査法

使用する針が太いため、腫瘍が小さい場合には、組織片の採取が困難なこともあります。また、採取される組織が小さいため、十分な診断ができないこともあります。この場合、切開による生検、あるいは摘出手術をお勧めすることもあります。